



新市誕生から20年 広がる、深める 郷土のあゆみ

新市誕生から20年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。
問合先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

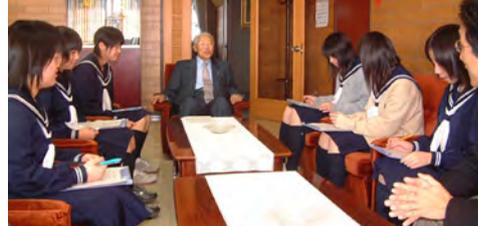
第1回 合併から20年を振り返る

現在の岩見沢市は、平成18年3月に旧岩見沢市、北村、栗沢町が合併して誕生しました。合併前の住民アンケートでは、いずれの地域でも3割前後が合併に否定的な意見を示し、税や公共料金の負担増や、保健・医療・福祉などの行政サービスの低下を心配する声が多く寄せられました。明治期に石狩川流域に誕生した岩見沢村から分離した北村と栗沢町は、100年以上住民に身近な行政主体の下で歩んだ歴史があり、戸惑いや不安は自然なことでした。閉村・閉町で退任する北村の村上村長、栗沢町の山田町長は、旧市町村の垣根を越えた一体感ある自治体となることを願いました。

新市ではその後20年、東日本大震災や胆振東部地震、積雪2メートルを記録する豪雪、市街地を襲った大雨洪水、新型コロナの感染拡大など、暮らしを脅かす出来事が相次ぎました。また、ごみ分別の徹底と有料化、自立支援型高齢介護、少子高齢化に伴う学校や保育所の統廃合、スマート農業の導入や遊水地建設など、産業や生活基盤の変革にも向き合ってきました。

一方で、文化活動や市民活動などを通して地域らしさを継承するため、文化祭やスポーツ大会を継続開催するとともに「いわみざわ百餅まつり」、「きたむら田舎フェスティバル」、「くりさわ農業祭」など地域の伝統ある行事を通して、市民の融和とまちの魅力の向上に努めてきました。平成18年4月号の広報いわみざわでは、市民100人の夢として「百歳まで健康」、「おいしい生産物づくり」、「スポーツを続けたい」などを紹介しました。皆さんの夢はかなったのでしょうか。今後も市民の皆さんが夢や希望を抱くことができ、それらを実現できるような市を目指していきます。

美流渡中学校生徒から合併の質問を受ける山田町長（平成17年11月）



広報紙はとじておきましょう

キラリ！その瞬間

市内のできごとをお伝えします！



2月27日(金)
愛犬と楽しむ 温室ワンDay



人の動き

住民基本台帳（令和8年2月28日現在）

人口	男	33,812人	（前月比 - 51）
	女	38,751人	（前月比 - 40）
	総数	72,563人	（前月比 - 91）
うち外国人		485人	（前月比 + 4）
世帯数		39,968世帯	（前月比 - 38）

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）、総務部秘書課広報室へお願いします



岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
☎ 0126-23-4111（代表） FAX 0126-23-9977



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

ログホテル メープルロッジ 玉ねぎチーズ焼きカレー



広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号2枠（申込多数の場合は抽選）
掲載料 各号1枠22,000円
申込期限 掲載希望号の3カ月前の月末（7月号に掲載希望の場合は4月30日(木)までに申し込み）
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518